令和4年度　社会福祉法人 協愛福祉会
施設自己評価表

（保育理念）
Happy+Natural
Happy+challenge

（保育目標）
げんきな子　やさしい子
がんばる子　ゆたかな子

A：よくできている　　B：わりとできている
C：一部改善が必要　　D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	法人の理念に対し少しずつ理解し実行しているが、個々の考え方が出てしまいまだまだ、来年度への課題となった。主体性を大切に保育して行こうと思う職員の姿も見られるが、子ども一人ひとりの人権の尊重については、引き続き今年度も考えていく。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	C	C	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	C	C	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	C	B	子ども一人ひとりの発達を考え計画しているが、どうしても年齢や、月齢より無理がある事も多く,素材や用具などもう一度計画を立てる際、職員同士話し合っていく。保育室の環境は、子どもたちの興味がある事を深める為、手作り玩具を用意したり、保育室の遊びスペースの環境を変化することが出来ていた。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	A	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	B	
	(6)1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	食育計画は、栄養士からの提案や、クラスで子どもたちと話し合い、年齢にあった計画を立てた。季節の野菜を植え、収穫したことで苦手だった野菜も興味を持って意欲的に食べることに繋がった。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	B	B	
役員構成 役割分担 研修	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	係からの発信や提案で、職員が共有したり、個々に考えを発言することで、保育室の環境や保護者に向けての発信を行った。.
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	C	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	C	B	

		評価		現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	C	B	年度末のアンケート（保護者にして頂いた）では今年度は保護者からの温かい言葉や評価を頂き、来年度も引き続き、保護者に寄り添い，子どもたちの成長・発達を伝え・共有することで信頼関係を築いて行きたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	B	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	C		ダウン症児の対応では、専門機関の連携を取り、本園への進級引継ぎを行った。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	D	見学の方に、法人理念を伝えたり保育室の環境を見て頂いた。育児の悩み相談を受けることもあった。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	C	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	B	

総合的な現状と課題

少しずつ異年保育に向け職員も抵抗が無くなって来ているが、午前中の活動では、まだまだクラス単位での活動が多く、職員の配置やお休みの際の合同に戸惑う様子も見られた。
朝、夕方の1，2歳児合同では上の年齢の友だちと関わることで、遊びが発展したり、下の年齢の友だちに優しく接する姿など見られ、子どもたちは、日常生活の中で沢山の成長・発展が見られた。
アート展では、子どもたちが今、興味持って遊んでいることから、異年齢で（1，2歳児）作りたいもの・（作ったもので遊ぶ）をテーマに制作に取り組むことが出来た。来年度は、行事の為ではなく、日頃から子どもたちのアトリエの活用方法を考え、日々の制作をアート展で展示していけることを視野に入れ、話し合い計画していく。

園　名　　ひなたの森保育園分園　　氏名　　荻野ゆみ